

[[name1]] 様

こんにちは、日本臨床漢方医会です。
寒さが厳しくなってきましたが、お元気でお過ごしでしょうか？

日頃からの養生と心身を整えられる「漢方薬」の活用は、冬を元気に過ごす一手になります♪
多くの方にもっと「漢方」を知って安全安心に使って頂きたく、役立つ漢方情報をお届けします。

++..... INDEX++

【1】なるほど漢方講座 ～痛みに漢方

【2】咳や痰に ～冬の漢方

【3】講習会情報

■ 編集後記

【1】なるほど漢方講座
～痛みに漢方

11/3 の市民公開講座に多数ご参加いただき誠にありがとうございます。
今年の市民公開講座の演題は、「痛みに漢方が効くらしい」という大変興味深いテーマでお送りしました。

演者は当会理事で、福岡市「平田ペインクリニック」院長の平田道彦先生です。
先生には、医療関係者にも役立つ漢方治療について、実例を多く交えて、解説いただきました。

いただいた質問への回答を皆さんに知っていただきたく本メルマガで6問、ご紹介します！

皆さんの「痛み」の解消や知識として、参考になれば幸いです。

◆質問1:

好転反応と副作用の違いを教えてください。

↓ ↓ ↓

<回答>

観察だけでは鑑別は難しいと思います。

不快な反応がでると患者さんはもう飲めなくなることもしばしばで、
頑張っああと2日飲んでくださいと頼んで、それで消えれば好転反応、ダメなら副作用と諦めます。

甘草の浮腫、高血圧、高カリウムは当然、副作用。
柴胡、黄ゴン(オウゴン)の肝障害、間質性肺炎も注意しなければなりません。

これらは飲んですぐには出ませんので好転反応とは見分けがつくと思います。

※黄ゴンのゴンはくさかんむりの下に「今」という字

◆質問2:

県外の者です。先生に診察して頂きたい場合はどうしたらよいですか？

↓ ↓ ↓

<回答>

クリニックにお電話いただいて、
遠隔診療の説明を受けてください。

初診からできるようになりました。

◆質問3:

葛根加朮附湯を保険適応のキス製剤では、どのように合方すれば良いのでしょうか？
葛根湯と桂枝加朮附の合方でしょうか？

↓ ↓ ↓

<回答>

5g ずつの混合で模倣できます。

◆質問4:

温めて痛みがよくなる人に、「当帰四逆加呉茱萸生姜湯」が思い浮かびます。

先生はあまり使われませんか？ 使うならば、どんな時に使われますか？

↓ ↓ ↓

<回答>

当帰四逆加呉茱萸生姜湯は大塚敬節先生が疝気症候群 A として記載された症候にはもちろん、霜焼けの既往があることを参考に、色々な症候に使っています。

特殊な例ですが、6ヶ月経過して難治となった顔面神経麻痺に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が奏効したことがあります。

◆質問5:腰痛で苦しんでいます。

MRI や CT では大きな異常は見当たらないのですが、ブロック注射も薬を飲んでも改善しません。

漢方は試していません。

カテーテル治療を提案されていますが、試してみる価値があるでしょうか？

↓ ↓ ↓

<回答>

是非、漢方薬をお試ください。

カテーテル治療はそれからでも遅くないでしょう。

◆質問6:

14歳が集会中に腹痛や気分不良で、緊張を感じ、特に生理中はひどいという例で、私は「小建中湯」を考えていましたが、「桂枝茯苓丸」を処方とのこと、はり「桂枝茯苓丸」が必要でしょうか？

↓ ↓ ↓

<回答>

お血証とハッキリしていましたので、桂枝茯苓丸を併用しました。

『抑肝散＋桂枝加芍薬湯』『抑肝散＋小建中湯』も効くと思います。

(回答) 平田ペインクリニック院長
平田 道彦

【2】咳や痰に ～冬の漢方

今年の夏は異様な暑さでしたが冬に入っても暖かな日が続き、例年よりも暖冬が予想されています。

医療界では新型コロナの波が過ぎたかと思えばインフルエンザ感染症が大流行となり、

西洋薬の咳止めや解熱剤などの在庫が無くなってきている中、本格的な流行シーズンに突入しようとしています。

皆様くれぐれもご用心ください。

ところで、冬になって花が咲く植物はあまり多くないのですが、12月から1月頃になると杷(ビワ)の花が見られるようになります。

ビワはバラ科の常緑高木で中国原産です。

古い時代に日本に伝来し、正倉院文書や『本草和名』にもその記載が見られます。

ビワでイメージされるのは初夏の頃にお店に並ぶ橙色の甘い果実ですね。

8～9月に採取したビワの葉の裏側の毛を取り除いたものは枇杷葉(ビワヨウ)」という生薬になります。

これを肉桂・菝葜(ガジュツ)・甘草・カッ香(カッコウ)・木香等と共に煎じたものを「枇杷葉湯(ビワヨウトウ)」と言います。

クーラーや扇風機のない江戸時代の夏に暑気払いや疫痢を防ぐ妙薬として一般に広く愛飲されたそうです。

また、この「枇杷葉」は、アミグダリンやビタミン B1、タンニンなどを含んでおり、

胃の調子を整えて痰を切って、咳を鎮める働きがあり、
漢方薬では辛夷清肺湯(シンイセイハイトウ)や枇杷清肺飲(ピワセイハイイン)に使用されています。

漢方ではこれ以外にも鎮咳・去痰効果のある薬剤は数多くあります。

止まりにくい咳や切れにくい痰に漢方薬はいかがでしょうか？

草花クリニック・古田誠

※「カッコウ」は、「くさかんむりに霍という字」+「香」

【3】講習会～主に医師・歯科医師向け



初歩から漢方を学びたい
医師・歯科医師向けに約 30 分位の
短時間で学べる「WEB セミナー」を開催します。

◆日時:1月16日(火)

◆演題:「水の異常 1-<2> 水毒(頭痛)」

◆時間:19時から、
19時半からの2コマがあります。

※質疑応答を含め、約30分の
短時間で、効率よく学ぶことができます♪

◆演者:堀場 裕子 先生
(慶應義塾大学医学部漢方医学センター助教/医局長)

▼詳細やお申込みは

<https://kampo-ikai.jp/contents/20220904-2/>

■ ┌───────────────────┐
┌──┐ 第 63 回漢方家庭医講習会
└──┘ ■ ────────────────────┘

<日本医師会生涯教育参加証 対象講座>

◆日時:2024年1月27日(土)

17:00～18:15

◆テーマ:「動悸」の多様性を考える
～高齢者における不整脈の漢方治療～

◆演者:井口 敬一 先生

(広島県福山市 祥和会 明神館クリニック
日本東洋医学会名誉会員)

◆共催:株式会社ツムラ

◆後援:福山市医師会

▼詳細やお申込みは

<https://kampo-ikai.jp/contents/20240127/>

■ ┌───────────────────┐
┌──┐ 第 64 回漢方家庭医講習会
└──┘ ■ ────────────────────┘

◆日時:2024年2月17日(土)

18:15～20:00

◆テーマ:女性の冷え 男性の冷え

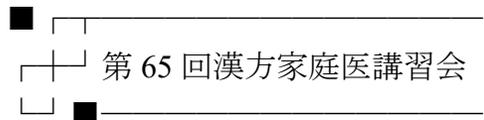
◆演者:大谷 知穂 先生

(玉嶋血液内科・漢方診療所
日本東洋医学会漢方専門医)

◆共催:株式会社ツムラ 後援:静岡県医師会

▼詳細やお申込みは

<https://kampo-ikai.jp/contents/20240217/>



第 65 回漢方家庭医講習会

◆日時:2024年3月17日(日)10時からの予定

<講演 I >

演題「口の渇きと漢方」

演者:内藪 明裕 先生

(せんだい耳鼻咽喉科 院長)

<講演 II >

演題「口腔機能と口渇」

演者:山口 孝二郎 先生

(昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門 客員教授)

※タイムスケジュールや申込先など、
確定次第、改めてお知らせいたします。

※いずれの講習も WEB 開催で、参加費無料！

※医会会員なら見逃しても

【会員特典】として、

過去の講習会や独自動画も含め、

ホームページから、いつでもご覧いただけます♪

↓ ↓ ↓

▼漢方家庭医会講習会

<https://kampo-ikai.jp/category/movie/training/>

▼ショートレクチャー

<https://kampo-ikai.jp/category/movie/shortl/>

▼医会独自動画

<https://kampo-ikai.jp/category/movie/original/>

▼市民公開講座

<https://kampo-ikai.jp/category/movie/course/>

当会の各種 講演で漢方への学びをより深めてみませんか？

当会では漢方家庭医講習会の参加や動画視聴などで、規定の研鑽に努めて認証を得た会員を「漢方家庭医」として認証しています！

漢方を深く学びたい医師・歯科医師で「漢方家庭医」の認証を取得したい方は、

<http://kampo-ikai.jp/profile/profile4/>

より、案内をぜひご覧ください<m(__)m>

◆編集後記

昨今、健康であることが最も大きな資産であると言われる。

日本にはイザという時、「漢方薬」があるのはとても心強い事ですね!(^^)!

新型コロナはじめ感染症により注意が必要な真冬に入ります。

治療だけでなく、日頃の健康維持の為に、少しでも不調を感じたら
早めに漢方医にご相談されるなど、ぜひ、この冬も漢方をご活用ください♪

また本年もご愛読いただき、誠にありがとうございます m(__)m

来年もよろしくお願いいたします。

どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。